

# 平成26年度博物館実習展アンケート分析結果に関する報告



## 第1章 はじめに

平成26年度の博物館実習展は菅楯彦と関係した形で各班それぞれ「アールヌーヴォーと日本」「神になった人間—菅原道真—」「大阪・堺・阪堺電車～都市をつなぐ道～」「一九六三あゝ映画」の4つのテーマで展示を行った。ここでは今年度の博物館実習展に関する来館者の評価を分析する。

## 第2章 調査概要

### 1. 調査目的

今回の博物館実習に対する来館者の印象等を調査すること。また、その結果を来年に生かすこと。

### 2. 調査項目

来館者自身について（性別、所属、年齢、住所、実習展に来たきっかけ、博物館、美術館へ行く頻度）

実習展について（各班の印象、全体の感想他）

### 3. 調査対象

平成26年度博物館実習の来館者

### 4. 調査時期

平成26年11月9日（日）～

11月14日（金）10：00～16：00

### 5. 調査方法

実習展が行われる特別展示室の前、受付で配布、回収（記入は任意）

### 6. 回収状況

全来館者：527人

回収枚数：290枚

回収率：55%

### 第3章 分析と考察

#### I. 来館者について

##### 1. はじめに

今回の博物館実習展では多くの方にご来館いただいた。ここでは、今後の博物館実習に生かすため、来館者にみえる傾向を分析していこうと思う。

##### 2. 使用した問いと分析方法

来館者を分析するにあたって、「性別」「所属」「年齢」「住所」「実習展へ来たきっかけ」「実習展に来た回数」「博物館・美術館へ行く頻度」についての7つの問を使用し、それを統計分析ソフトで分析した。

##### 3. 結果

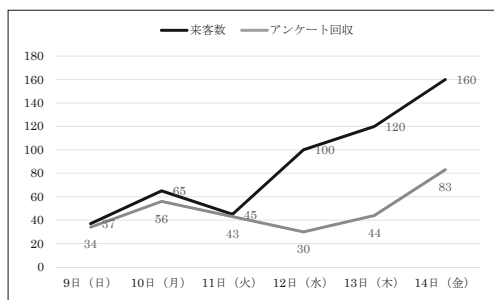


図1. 来館者数とアンケート回収数の推移 (人/枚)

図1に示したのは日程ごとの来館者数とアンケートの回収枚数である。来館者数は、11日に大きく減少したもののその後は最終日に向かって増加している。

対してアンケートは、来場者数と同じく、11日に回収数が減少したが、来場者数が持ち直してきた12日まで減少を続け、そこから緩やかに増加している。

上の図2で示したのは来館者の男女比である。男性が女性よりも28%高く出ているが、男女比はほぼ同数であったといえる。

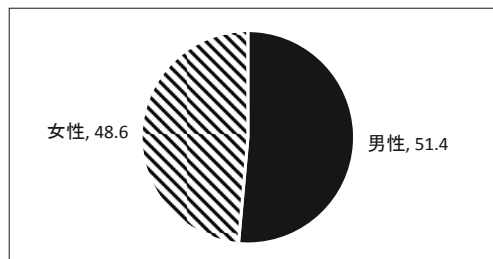


図2. 来館者の男女比 (%)

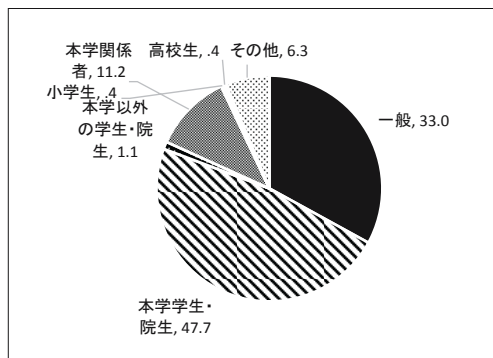


図3. 来館者の所属 (%)

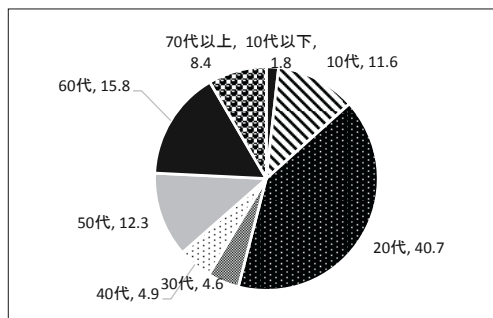


図4. 来館者の年齢 (%)

図3は来館者の所属、図4は来館者の年齢を示している。2つの図を見比べると、大学にある博物館であるという性格上、学生が半数をしめていることがわかる。

図5は来館者がどのようなきっかけで博物館実習展に来たかを示す図である。図を見ると、友人・知人がきっかけで来館した人が最も多く、それに次いで、授業をきっかけにし

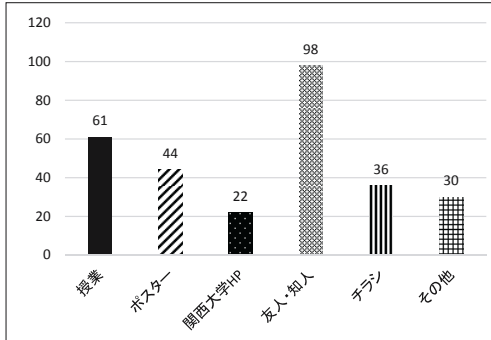


図5. 来館したきっかけ (人)

て来館した人が多かった。

では、どのような所属の人がどのようなきっかけで博物館実習展に来館したのだろうか。次の図6～図8は、図3で示した来館者の所属と図5のきっかけをクロス集計し、分析した結果である。

図6は、一般の来館者がどのようなきっかけで博物館実習展に来館したかを示した図である。

一般の来館者は、チラシをきっかけに来館した人がその他を除いて多く出た。一般の来館者で、その他の欄に市の広報紙を挙げている人が多くいた。

図7は関西大学の学生や、院生がどのようなきっかけで来館したかを示した図である。学生や院生は授業や友人や知人の誘いで来館した人が多くみられる。

図8は関西大学の関係者がどのようなきっかけで来館したかを示した図である。データとしては少なかったが、この図を見ると、ポスターを見て来館を決めた人が多くいた。

上の図で挙げたデータ以外にも所属に関する選択肢には「本学以外の学生・院生」「小学生」「中学生」「高校生」「その他」の項目があったが、どの項目も人数が極端に少なかったため、分析に入れなかった。

次に、来館者が博物館実習展に来た回数、

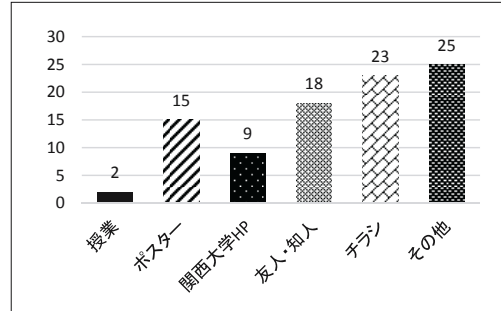


図6. 一般 (人)

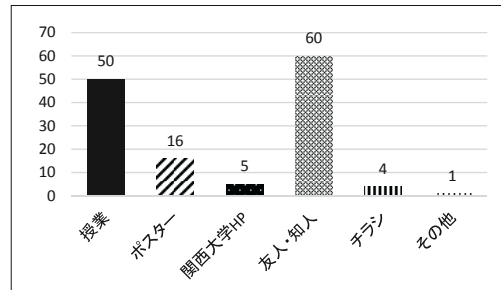


図7. 本学学生・院生 (人)

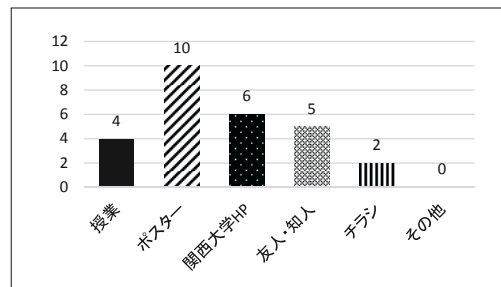


図8. 本学関係者 (人)

博物館や美術館へ行く頻度を分析した。

図9は来館者が今までに博物館実習展にどのくらい来館しているかを示した図である。

来館者の半数以上が初めて来館した人で、毎年来館していると回答した人は7.3%であった。

図10は来館者が普段博物館・美術館へ行く頻度を示した図である。この図では、博物館に「ほとんど行かない」と回答した人が多く、

次に「数か月に1回」と回答した人が多かった。

では、今回の主な来館者であった関西大学の学生・院生はどのくらいの頻度で博物館や美術館を訪れているのだろうか。次の図11は図4で示した来館者の所属の中の「本学学生・院生」の項目と、図10の「博物館・美術館へ行く頻度」の結果をクロス集計したものである。

図11は関西大学の学生、院生が博物館、美術館へ行く頻度を表したものである。この結果では関西大学の学生、院生は博物館や美術館へ「ほとんど行かない」という結果が出た。

しかし、今回はアンケートの回収枚数が少なく、有意な結果が得られたとは考え難いのでこれが現代の関西大学の学生の傾向と当てはめることはできない。

#### 4. 来館者に関する調査の考察

ここでは、平成26年度の博物館実習の来館者に関するアンケートの分析を行った。

日程別の来館者数の推移では最終日に向かって増加していったが、それは最終日近くに博物館関係の授業の先生が学生やゼミ生を連れてきたことが要因の一つとして考えられる。アンケートの回収率と、来館者数が比例していないのは、先生が連れてきた学生や、他にも一般向けのツアーで来館した方々はアンケートを記入しなかったのが要因ではないかと考えられる。

また、初日は日曜日であったが、天候が悪かったこともあり、来館者が少ないように感じる。天候が良ければもう少し来館者が見込めたのではないかと考える。

来館者の所属と年齢では、やはり関西大学の学生、院生が多かった。学生でいえば「知人・友人」がきっかけで来館した人が多かったので、これは実習生の身近な人への積極的

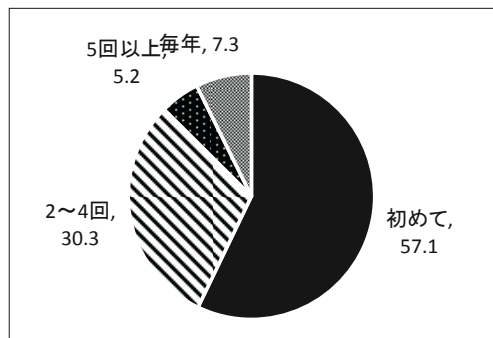


図9. 今まで博物館実習展に来た回数 (%)

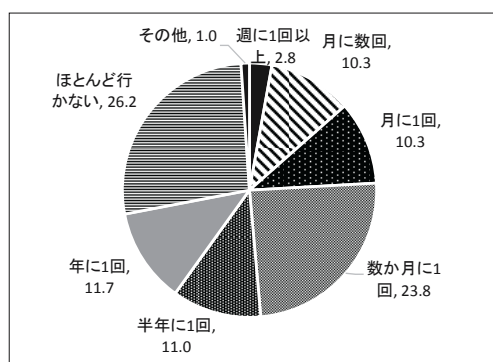


図10. 博物館・美術館へ行く頻度 (%)

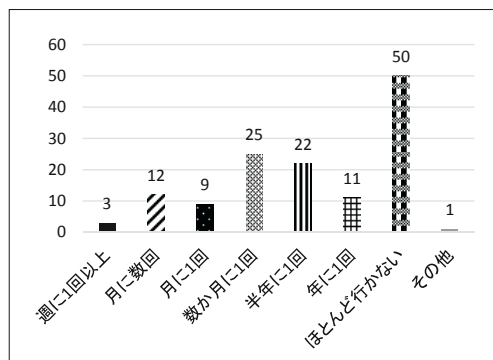


図11. 関大学生・院生が博物館へ行く頻度 (人)

な宣伝が来館者を増やすためには重要であることを示していると考えられる。

きっかけをたずねる間で、その他欄にあった「市報」や「広報」はアンケート係としては知らなかったことであるから、各班の広報

係ともう少し連携をとり、事前にどのような広報をしたのかを的確に把握する必要があったと思うので、これは来年度に生かしていく点である。

関西大学の学生だけでいえば、博物館があること、ある場所を知らない学生は大勢いる。博物館自体がもう少し博物館の存在をアピールしていけば定期的に来館してくれる学生が増加するのではないだろうか。

(荒木 理穂)

## II. 来館者の感想 (自由記述)

### 1. はじめに

ここでは最後の問「今回の博物館実習展についてご意見やご感想をお書き下さい」の集計を掲載している。

※部分的に意味が通じない箇所もあるが、それはお客様の感想としてできるだけそのままの形で掲載した。

### 2. 来館者の感想

#### 11月9日 (34人中17人が回答)

- 生田花朝さんや菅楯彦さんの作品も見ることができ、よかったです。毎年この実習展を楽しみにしています。今後ともしっかり励んでください。学生の方々の説明わかりやすくよかったです。
- 皆様、色々調べられてすばらしいと思いました。
- いずれの展示もよく資料が集められていて良かった。
- みなさん、よくやっていただいて解説してくださるのは、本当によくわかりました。
- 非常に見応えがありました。また、期間を増やしていただきたいです。
- 関西大学図書館所蔵の作品が多いのに感心した。
- みなさん、真面目に取り組んでいることが

伺えました。楽しく見せて頂きました。ありがとうございます。

- 資料を説明するまでの過程が楽しいだろうと想像出来ました。
- 写しより本物を展示することが望ましい。
- 色々と興味深かったです。
- 良かった。
- 学生さんが丁寧に解説してくれて良かったです。もう少し、見どころなどのアドバイスが出来れば実に良いかと思います。
- 実習展を知りませんでした。博物館を見学に来たらやっていました。ありがとうございました。これからも頑張ってください。
- 皆さん頑張っていたと思います。
- 学生の皆様が丁寧に説明してくださって良かった。
- 全体について満足。博物館への学内の案内表示を丁寧に (外部来館者のため)
- 阪堺電車が一番面白かったです。

#### 11月10日 (56人中29人が回答)

- 解説以外の声が大きくて少しうるさいような気がした。解説は丁寧に良かったと思う。
- 展示を見せて頂いて興味深く、たわいない質問にもわかりやすく答えて下さって感謝します。
- 菅楯彦氏の展示に人間関係の解説が欲しかった。
- 展示が全体的に見やすかったです。もう少し展示の期間を延ばしてもいいかなと思います。
- 展示スペースが広がって良かった。昨年よりどのグループも解説プレートなど凝っていると感じた。とても良かった。
- 良かったと思います。実習生が頑張っていたと思います。
- 毎年来ていますが、今年は内容が豊富でバラエティーに富んでいるなど感じました。説明もわかりやすかったです。せっかくこ

- んなに完成されているのだから、展示期間を長くしてほしいです。
- 去年より、各ブース展示物も多く内容も濃くて楽しめました。お疲れ様でした。
  - このような実習展示が現代にどのように役に立つのかをはっきり説明してもらえるといいと思います。
  - 全体的にパンフレットや解説が読みやすく、より展示してあるものに興味をひかれた。
  - 皆さん、よく調べよく展示物を収集出来ていてすばらしかったです。
  - 阪堺電車の展示は良かった。
  - とても勉強になりました。
  - 初めてでしたがどの展示も興味深かったです。
  - 見応えがありました。よく整理され内容も分かりやすかったと思います。
  - 興味深かったです。
  - 興味深い。
  - それぞれの展示に個性があり、面白かった。
  - 展示解説をもう少し積極的にしてほしいです。
  - 博物館を訪れたのは初めてでした。美術部員で、芸術鑑賞が趣味で今回観に来ました。色んな分野の展示物が観れて良かったです。また利用しようと思います。
  - もう少し深い解説があったらな。
  - 知らない事ばかりでとても勉強になりました。良かったです。
  - 本物を用いることで説得力があって分かりやすかった。
  - 初めて来たので、雰囲気知れてよかったです。
  - 普段目にしないものを観ることができよい経験になりました。
  - わかりやすい説明があり、勉強になった。知らないことを知ることができよかった。

- どの展示も見応えがあり、とても良かったです。特に感じたことは、どうすれば伝わりやすく、読みやすくなるかといった学生の思いが随所に伝わってきました。
- 学生さんに御説明いただいたのは菅原道真だけでした。積極的に説明してくださって大変好感が持てました。ありがとうございました。
- 学生さんの説明が丁寧で好感が持てました。

11月11日（43人中19人回答）

- とても楽しませて頂いた。解説が分かりやすかった。
- 去年実習展をやっていたものですが、懐かしく感じられました。解説ありがとうございました。
- 全体的に見やすくよくまとまっていると思う。貴重な資料をよく集めた后感心しています。
- 全体的に展示品についてのキャプションの字が小さかったかと。少し見辛かったです。展示内容自体はどれもしっかりしていて良かったです。ここまでちゃんと資料を集めているのに驚かされました。
- 知らないものばかりで釘付けになりました。
- 案内はありましたが、ブース毎の順路が部屋全体から見た動線からは流れが悪く、つかみにくかった。
- どの発表も展示はしてあるが何を主張したのか分からない。展示のねらいが明確でない。なつかしい場面に出会えたことはありがたかった。
- 以前の場所の方が良かった。コンパクトにまとまり見やすかった。広いのに展示が少ない。
- 限られたスペースの中でやっているのはすごいなと感じた。また全てが色んな分野にまたがっていたので面白かった。
- 順路は統一した方が良いのではないでしょ



うか。

- 図録の配布をしていないところの展示は、不良があるので見本だけでなくコピーを作ってぜひ配布してほしい。
- ポスターを見て面白そうだったので足を運びました。すぐ後ろに人が立っているのが少し圧力でした。展示はとても楽しかったです。
- 資料をしっかり収集されていて、実習展ながらよい企画がそろっていると思いました。
- 菅楯彦との関連作品がちょっと少ない気がしました。
- 今まで見たことのある博物館というものよりも親しみやすさがありました。ゆっくり見たかったです。
- 広範囲で昔を思い勉強になり又多様な展示をお願いします。
- 初めて来ました。また来てみたいです。
- 博物館に来たことがなかったので面白かったです。
- 詳しく解説していただいて、わかりやすかったです。知らないものがたくさんありました。

#### 11月12日（30人中13人回答）

- 予想以上の質の高さに驚きました。皆様おつかれさまでした。
- 展示も説明も丁寧にしていただきとても良かったと思います。寄せて頂いて良かったです。ありがとうございます。
- 何を話すことで誰を引きつけることができるのか、そのためのタイミングはいつか、専門家に学ぶことも視野に入れるべきだと思います。
- めっちゃよかったです。
- さまざまなところから資料を借りて展示されていて見応えがあった。
- どの展示も写真や実物が見やすく説明をしていただいて良かったです。資料も貴重な

物も多く、ゆっくり見させていただきました。

- 会場が入り組んでいて巡りにくい。
- ここ数年、展示を見ており、私自身も実習展を経験しましたが、展示を見ていて、もっと学生らしくガツガツしたものが見たかったです。映画と電車の班は「好きなんだな～」とやる気が見えた。
- 学生諸君の努力がよくみえる。
- 色々なジャンルの展示が見れ、とても楽しかったです。貴重な資料なども見れてよかったです。
- アンケートが書きにくいので、ボードや下敷きが欲しいです。
- 普段博物館に来ないのでいい機会になりました。たのしかったです。ありがとうございます。
- どの展示も独自の雰囲気を持っており、一つ一つが強く印象に残りました。解説も分かり易く、伝えたいことが伝わりました。

#### 11月13日（44人中18人回答）

- 菅楯彦のコーナーは、「翻刻」と説明をつけて欲しいです。
- 展示物は見やすかったです。それぞれの展示品について解説（キャプション）があるとより一層おもしろくなるのではないかと思います。
- サロン・デ・サンに惚れました。
- 小さい展示スペースでよくまとめて展示していたと思います。楽しめました。
- テーマが様々で見えて楽しかった。
- 資料について、提供者に直接交渉等、学生らしく良かった。少ない資料でも展示目的が観覧者に伝わるようパネル等で、頑張りが見られた。
- 古い資料がよく保存されているのに感心しました。
- こういった催しがあることで知識が広がり

ます。また下宿生のため、しょっちゅう博物館に行ったりは金銭的にも時間的にも不可能なので、この実習展は本当に嬉しいです。ありがとうございます。がんばってください。

- とてもよかったです。
- 全体的にわかりやすくよかったです。
- 良かったです。
- 友人の勧めでぶらりと足を運んだだけだったのが想像より面白かったです。ありがとうございました。テディベアが可愛かったです。
- 初めてきたけど、おもしろかったです。
- 是非毎年やって行って欲しいぐらいよかったです。次回はどんなテーマやってくれるか楽しみです。
- どの展示も実際のもので置いてあって、興味がそそられたし楽しかった。
- 初めて来ましたが様々なことを研究されていることを知りおどろきました。興味深い内容が多く楽しかったです。
- 私は大変良かったと思います。
- ジャンルが様々で面白かったです。

11月14日（83人中46人回答）

- 展示の工夫がよくなされており、予想以上に高いレベルの展示がされていることに、強い印象を受けた。大変に素晴らしい実習の成果であり、大学の関係者として誇らしい。
- 楽しくためになった。
- 実習展があることを初めて知りました。次回開催の際も、ぜひ来たいと思います。皆さん頑張ってください。
- 説明の内容はよく考えられていて（調べられていて）非常に良かったです。声が小さかったり、少し早口になってしまったり話し口調が一定でなかったりというのが、少し残念でした。
- 吾輩は猫であるの原本が見れてよかった。説明の文字が小さくて見辛い。

- 研究期間がどの程度あったのか分からないが、もう少し多く（深く）調べ発表（展示）して欲しかった。でもこれから増やせばいいことではあるが、60年くらい経てば自然と増えてくるから。（興味のきっかけとなれば生涯たのしくなる）いろいろ研究を深めて「好き」が「仕事」となるように頑張ってください。
- テーマをしっかりと考えて表現しています。
- 資料集め等は、大変だと思えるが頑張ってください。
- それぞれの展示内の順路がわからなかった。いろいろな展示が見れて楽しかった。
- 今回はどこの展示も力の入ったものだったと思う。
- もう少し簡潔な説明にしてほしかった。
- 説明がとても長かった。
- キャプションのレイアウトがとても難しかったです。
- アールヌーヴォーのキャプションの位置が見にくい。キャプションの字がそろっていない。全班ともにキャプションが統一されていない。図録もう少し校正した方が良い。
- 楽しかったです。
- ターゲットを決めて深掘りすることはこれからも役立つと思う。
- デジタル化にどう取り組むかが課題だと思います。
- 大変有意義な展示会だと思いました。
- 様々なテーマのものを一度にみることできて興味が深まりました。
- 限られたスペースの中でうまく工夫して見やすく、また理解しやすい展示になっていたと思います。
- いろんな所から借りて来ていてすごいと思った。多様なテーマのを知ることができて良かったし、おもしろかった。
- 結構、多くの物が展示してあって良かった。



- 高校で日本史を選択していたので、絵巻物とか見れてよかった。
- スタッフさんの説明がとても分かりやすく、質問した時も丁寧に答えて頂きよかったです。
- 六曲一双の屏風を鳥取県立博物館へ寄贈（約20年前）妻の実家が南堀江。
- いろいろなジャンルの展示が見れてとても面白かった。また、解説もとても分かりやすく、全く知識がなくても楽しめた。
- 全体的に時間が長い。
- 丁寧に説明して頂き、知らないことでも興味もてる展示になっていたと思いました。貴重なものがたくさんあり、すごく勉強になりました。
- 博物館に足を運ぶことがあまりないので、貴重な経験になりました。
- 一か所だけ説明して頂きました。よかったです。
- 全く知らない展示もあって、たくさん知ることができて面白かった。解説の仕方も、自分のプレゼンとかで取り入れてみようと思った。
- どの展示も見やすく、説明も分かりやすかったです。
- とても参考になった。
- あまり自分が興味のないことも楽しく見れました。ありがとうございました。
- 実習展という意味がわからなかった。
- 4つのブースそれぞれに良い所、個性のある所、改善できる所があったと思う。自分の今後の学習に向けて、参考になる部分がとても多かった。
- 自分が博物館実習を履修した際、どのような展示と解説をすれば良いか参考になりました。
- スタッフ（学生さん）の説明がさすがしく気持ちよかった。実習展の準備ご苦労様

でした。

- 学生形式の自主企画とすれば、大変有意義でおもしろいと思います。もっと他大学も導入してはと思いました。
- 手前二つと後ろ二つで順路が違うのはどういことでしょうか。真逆になっていたの  
で疑問を抱きました。あと順路を決めているのなら遵守を徹底して下さい。見学者に対して、声をかけるのは良いのですが、視線を向けて黙っているのはいかがかと思  
います。展示そのものに集中したいときに非常に気になりました。
- 時間がなく全てを見ることができませんでしたが少ないながらもよく調べられていて面白かったです。
- どの展示も皆さんの思いが伝わる良い実習展示だったと思います。今回は大阪にまつわるものが多かったので、大阪の良さを再発見することができました。
- よくそろえたと思います。感心しました。
- 菅楯彦の作品を数多く見ることができてよかったが、「職業婦人絵巻」の解説の文字が小さすぎる。
- アールヌーヴォーと阪堺電車を見に来ましたが、他2つの展示も楽しくみることができました。見やすい量の展示でした。ありがとうございました。
- きれい。整頓されている。（他の館とは別）

（三谷 阿希歩）

### Ⅲ. 各班について（結果と考察）

ここからは各班のアンケートの分析結果と考察を掲載していく。

#### A班 「アールヌーヴォーと日本」の展示について

##### 1. はじめに

私たちの班は「アールヌーヴォーと日本」をテーマとした展示を行った。

アールヌーヴォーとは、19世紀末から20世紀初頭にかけてヨーロッパを中心に開花した芸術様式である。特に19世紀後半に活躍したチェコの画家アルフォンス・ミュシャは、花や星、女性をモチーフとしたきらびやかなポスターを作成し、アールヌーヴォーの様式を確立した。それらの影響はヨーロッパに留まらず日本にも及び、現代でも影響が残っている。本企画展では、ミュシャの複製版画とともに、アールヌーヴォーの影響を色濃く受けた、文芸雑誌「明星」の挿絵や、夏目漱石「吾輩ハ猫デアル」の表紙など、貴重な資料を一挙に公開した。そして、作品同士の比較を通して、西洋と東洋のつながりを感じてもらえることを目的とした。

##### 2. 問いについて

共通項目の説明：全班の共通項目として、①展示の内容について、②展示の見やすさについて、③展示の解説について、④全体の雰囲気についての問題を設定し、(1. 良い～5. 悪い)までの5段階で評価してもらった。各班の問いについてアールヌーヴォーと日本の班では、以下のことを聞いた。

- 「アールヌーヴォー」という言葉を知っていましたか。(はい、いいえの二者択一式で回答してもらった。)
- 「アールヌーヴォー」について理解が深まりましたか。(1.よく分かった～5.まったく分

からなかった、までの5段階で評価してもらった。)

- どの作品が一番印象に残りましたかお答えください。(自由記述式で回答してもらった。)

##### 3. 分析結果

###### (1) 共通質問の分析

図1～4はアールヌーヴォーと日本の来館者の評価である。ほとんどの項目で「良い」と回答した人が半数を占めている。しかし、解説については「良い」と回答した人が34%と少なく出た。

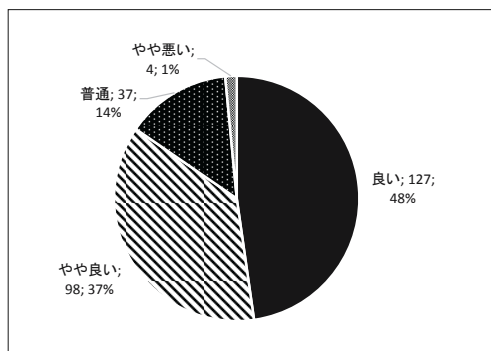


図1. アールヌーヴォーと日本の展示の内容について

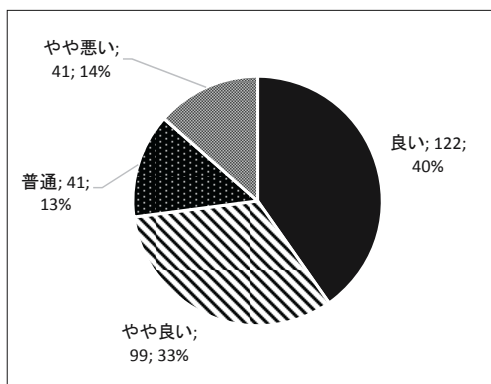


図2. アールヌーヴォーと日本の展示の見やすさについて

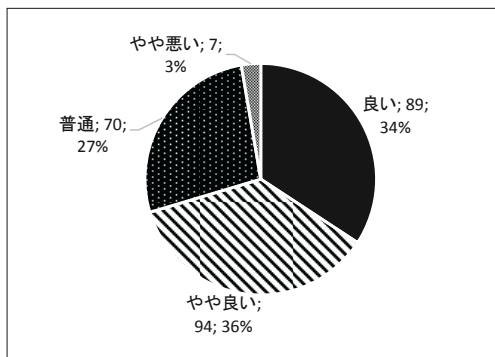


図3. アールヌーヴォーと日本の展示の解説について

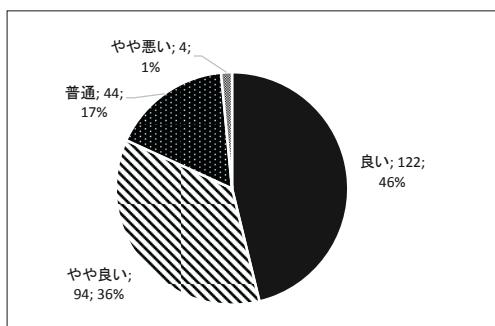


図4. アールヌーヴォーと日本の全体の雰囲気について

## (2) 班ごとの質問の分析

図5は来館者に「アールヌーヴォーという言葉を知っているか」をたずねた結果を分析したものである。半数以上が「知っている」と答えていた。

「アールヌーヴォーについての理解が深まっ

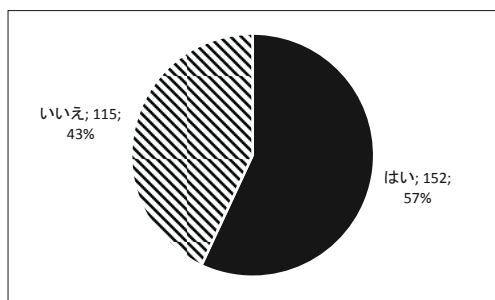


図5. 「アールヌーヴォー」という言葉を知っていたか

たか」の間では半数以上が「分かった」と回答しており「まったくわからなかった」と回答した人は一人もいなかった。

順位	作品名票	
1	明星	24
2	吾輩ハ猫デアル	16
3	みだれ髪	13
4	コート・ドールの皿	12
5	ミュシャ全般	11
6	ヒヤシンス姫	11
7	ハイバックチェアー	11
8	ジョブ	8
9	全て	6
10	ブローチ	5
11	マッキントッシュのブローチ	4
12	印鑑ケース	3
13	サロン・デ・サン	3
14	ポスター	2
15	リバティプリント	2
16	本	2
17	サラ・ベルナール	1
18	絵	1
19	バッグインバッグ	1

上の表は来館者が印象に残ったものをまとめて順位を付けたものである。上位は「明星」や「吾輩ハ猫デアル」など、一般的によく知られているものが挙げられていた。

## 4. 考 察

共通質問の分析に関して、「良い」や「やや良い」という評価が77.5%（図1～図4の合計%の平均）と大変好評価を得た。また、「悪い」という評価は0%であり、「やや悪い」という評価が4.8%（図1～図4の合計%の平均）といずれも低い値であった。ただ、展示のみやすさ（図2）については「やや悪い」の評価が14%と他と比べ高い値となっている。こ

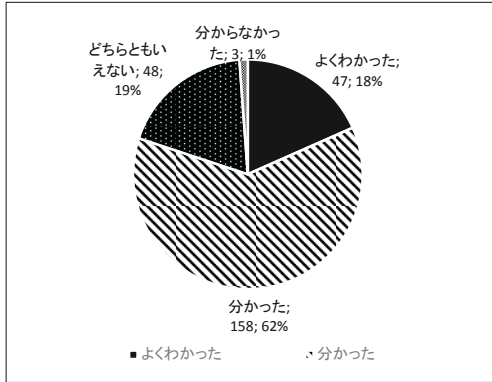


図6. 「アールヌーヴォー」についての理解は深まったか

のことは、展示パネルの文字が小さいなどの読みづらさが要因にあったと考えられる。

班ごとの質問の分析に関して、アールヌーヴォーという言葉を知っている」と答えた人が57%、「知らない」と答えた人が43%と、半数以上は知っているという結果になった。博物館の立地が第1学舎に近く、博物館実習展を履修している生徒も文学部の学生が多い(女性の数が多い)ので「知っている」と答えた人が多くなったと考えられる。

次に、アールヌーヴォーについての理解は深まったかという質問に対して、「よく分かった」や「分かった」という評価が80% (図6 合計%) と多くの来館者が理解を示した結果となった。最後に、一番印象に残った作品としては、表1に示した通りである。「明星」と答えた人が24票と一番多かった。明星の作品は3点あるため、展示品が多い分、印象に残ったと考えられる。

(社会安全学部 4回生 三谷 阿希歩)

## B班「神になった人間—菅原道真—」の展示について

### 1. はじめに

B班は今回の博物館実習展では「神になった人間」というタイトルのもと、祭礼調査に行った天神祭に関連して天神様=菅原道真について「生涯」「神になった後」「観光」の三つの側面から展示を行った。

ここではB班の展示に対する来館者の印象について分析した。

### 2. 使用した問いと分析方法

#### (1) 共通質問

全班共通の質問で「展示内容について」「見やすさについて」「解説について」「全体の雰囲気について」の4つの項目を5段階で評価してもらった。

#### (2) B班は以下の内容を来館者にたずねて、統計ソフトで分析した。

#### 2. 今回の展示で初めて知ったことはどのようなことがありましたか(複数回答可)。

1. 菅原道真の生涯について
2. 菅原道真が学問の神様であることについて
3. 菅原道真が雷の神様であったことについて
4. 観光資料について
5. 全部
6. その他

( )

#### 3. どの作品が一番印象に残りましたかお答えください。

( )

### 3. 分析結果

#### (1) 共通質問について

図1～4は全班共通質問の結果である。こ

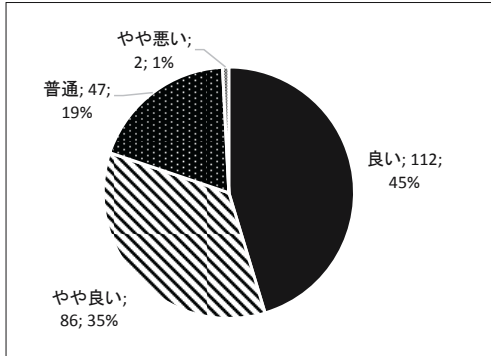


図1. 展示内容について (人数；%)

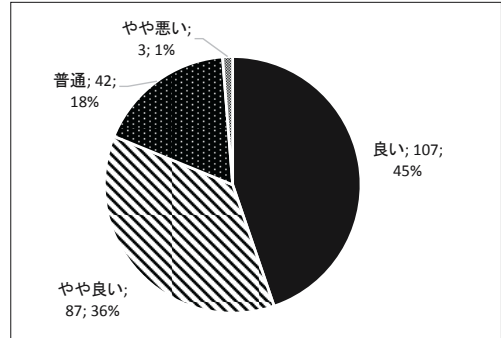


図4. 全体の雰囲気について (人数；%)

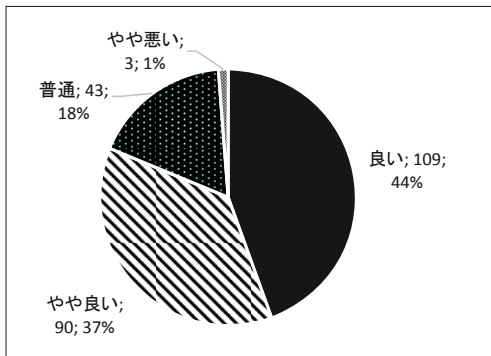


図2. 展示の見やすさについて (人数；%)

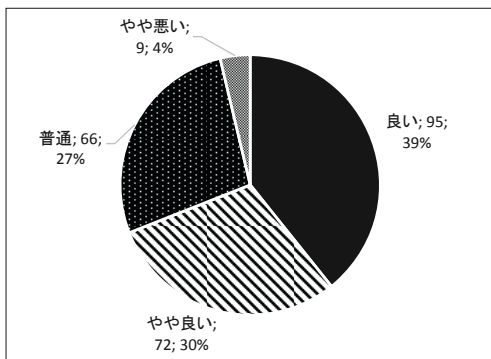


図3. 展示の解説について (人数；%)

これは来館者に今回の展示について5段階で評価してもらったものだが「悪い」と答えた人がいなかったことが特徴的である。

図1、2、4に関してはほぼ同じような数

値を示した。しかし、図3の「展示の解説について」の結果を見ると、他の3つと比較して「やや悪い」と評価している人が多かった。

## (2) 班別の問の分析

図5は来館者が今回のB班の展示で菅原道真について初めて知ったことについてたずねた結果である。道真が学問の神様であることはよく知られているようだが、雷の神様であった側面を知らない人が多くいることが分かった。

図6に示したのは来館者が印象に残ったものの分析結果である。図を見ると能面が印象に残ったと回答した人が多かった。特に、能面の中でも、雷の能面が強く印象に残ったと回答した人が多かった。

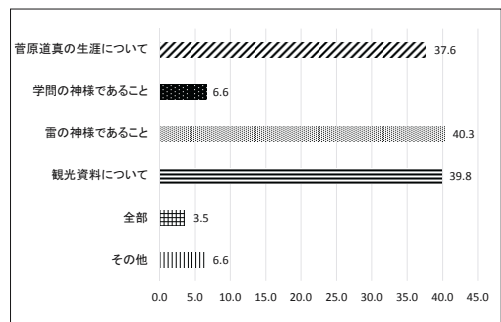


図5. 来館者が初めて知ったこと；複数回答 (人数)

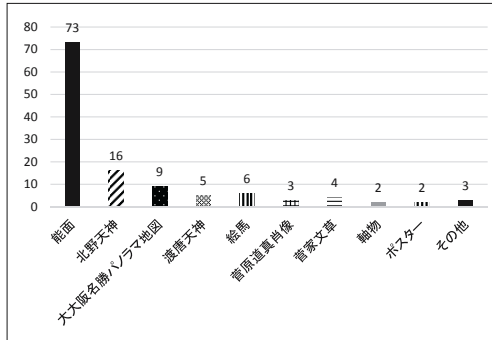


図6. 印象に残ったもの（人数）

### (3) 来館者の感想

B班は感想を書く問を別に設けてはいなかったが、印象に残ったものの中に感想があったので、ここに掲載しておく。

- (能面) 全体的に黒をバックに使ったりしてインパクトがあり、見せかたがうまい。
- こちらの理解の不足もあると思いますが、全体に展示内容がつかめず、消化不良の印象が残りました。
- 解説パネル等が必要だと思います。
- 改めて、天満宮が、江戸期にも観光の名所であったことを知ることができた。
- 鳥さんの説明がわかりやすかった。
- (渡唐天神) 真正面から描かれていて印象に残った。
- 十一歳で漢詩を作ったこと（初めて知った）。
- 菅原道真が雷のかみさまであることが印象に残った。
- 日本に於いて天満宮信仰の普及の度合い・比率（初めて知った）。
- 道真の講座をうけたことがあったので少しわかった。
- 天満宮の昔の資料（印象に残った）。
- 説明をあまり聞けなかった。
- キャプションが見にくい。
- タイトルがいい。

印象に残ったことや、初めて知ったことの

ほかに、キャプションや、ディスプレイに関する感想があった。キャプションや解説に関しては不足していたということが、少しかがえる。

## 4. 考察

ここでは来館者のB班の展示に対する印象、菅原の道真について初めて知ったこと、展示で印象に残ったものの分析を行った。

印象に関しては、予想していた通り、他と比べて解説に関する評価が低く出た。これは先生の好評の時も言われたことであったが、もう少し文章で理解することができるような工夫をしていくことができればよかった。

はじめて知ったことで「学問の神様であること」については知っている人が多くいた。これは来館者に学生が多く、入試の時などに天神様をお参りしたことがあるからではないかと考えられる。天神さまに関しては「学問の神様である」ということ以外はあまり知られていないことが分かった。

印象に残ったものの分析結果をみて、改めて、能面の存在の大きさに気付いた。能面はポスターなどにも掲載されており、大きなインパクトを放っていたが、やはり来館者にしてもその迫力は心に残ったものであったと思う。大大阪名勝パノラマ地図は、来館者がじっくり立ち止まって見ることは多かったにもかかわらず印象に残ったと答えている人が少ないことは意外であった。

天満宮は意外と身近なところにある。今回の展示をみて、自分の身近な天満宮に興味を持つ人が増えれば良いと思う。

(社会学部 3回生 荒木 理穂)



## C班 「大阪・堺・阪堺電車

### ～都市をつなぐ道～」の展示について

#### 1. はじめに

私たちは、大阪市から堺市をむすぶ大阪唯一の路面電車である阪堺電車こと阪堺電気軌道について展示を行いました。

本展示では、創業当時から現在に至るまでの阪堺電気軌道のあゆみを見ていくとともに、その沿線に息づいてきた地域と文化にも焦点をあてました。

#### 2. 問いについて

まず始めに全班の共通質問として、(展示の内容について・展示の見やすさについて・展示の解説について・全体の雰囲気について)を設定し、5段階で評価してもらいました。

班別の質問としては、(今までに阪堺線を利用されたことがあるかについて・阪堺電車沿線の歴史や文化についてご存じだったものについて・展示を見て興味、関心を持ったものについて)をお聞きしました。

#### 3. 分析結果

##### (1) 共通質問の分析

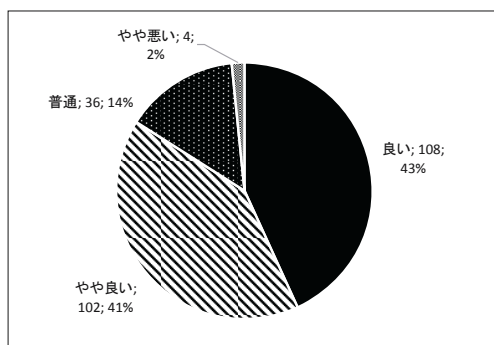


図1. 展示の内容について (人数；%)

この図は、展示の内容についての評価を示したものである。上記で5段階で評価しても

らったとあるが、「悪い」と回答された方がいなかったため、ここでは4段階の評価を図で示している。なお、下記の図も同様である。図を見ると、84%の方が「良い」「やや良い」と回答されている。

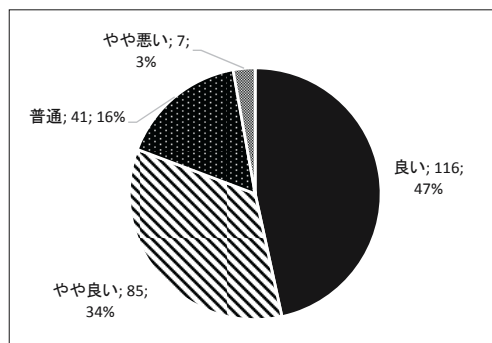


図2. 展示の見やすさについて (人数；%)

この図は、展示の見やすさについての評価を示したものである。図を見ると、81%の方が「良い」「やや良い」と回答されている。

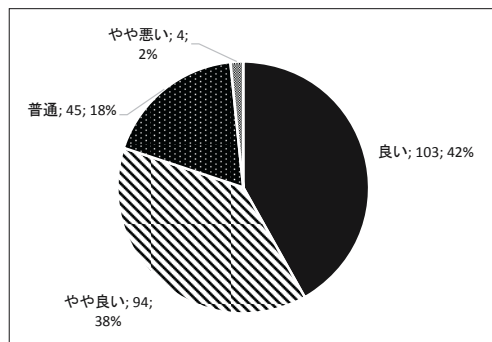


図3. 展示の解説について (人数；%)

この図は、展示の解説についての評価を示したものである。図を見ると、80%の方が「良い」「やや良い」と回答されている。

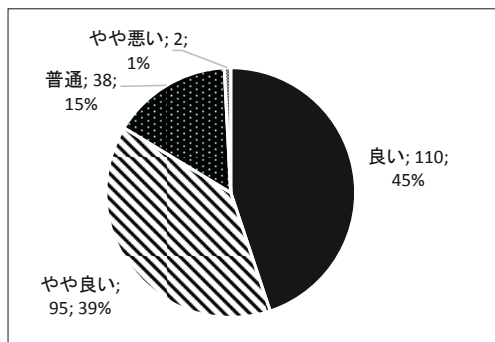


図4. 全体の雰囲気について (人数 ; %)

この図は、全体の雰囲気についての評価を示したものである。図を見ると、84%の方が「良い」「やや良い」と回答されている。

## (2) 阪堺電車班の質問の分析

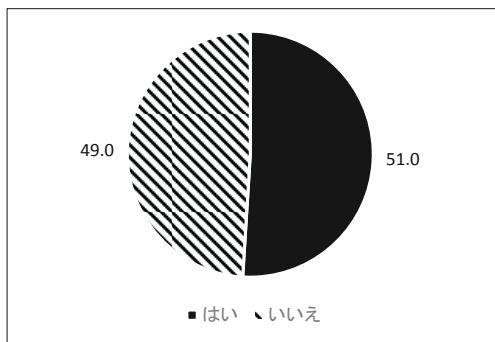


図5. 阪堺電車を利用したことがあるか (%)

この図は、阪堺電車を利用したことの有無についての回答を示したものである。図を見ると、51.0%の方が阪堺電車を利用したことがあると回答されている。

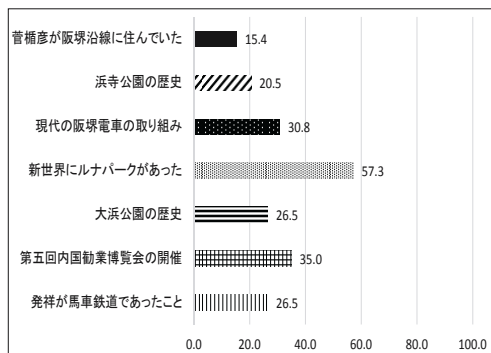


図6. 阪堺電車についてご存じだったこと (%) (複数回答)

この図は、阪堺電車沿線の歴史や文化についてご存じだったことを聞き、その回答をまとめたものである。図を見ると、「新世界にルナパークがあった」ということを知っておられる方が57.3%と、他に比べ、圧倒的に高いことが分かる。一方、「菅橋彦が阪堺沿線に住んでいた」ということは、あまり知られていないことが分かる。

## (3) 来館者の感想

来館者の方からいただいた感想は下記の通りである。

- 各時代の沿線地図が良かった。
- 阪堺線に一度乗ってみようと思った。
- ترامに乗ってみようと思った。
- 浜寺公園の展示が興味深かった。
- 昔と今の阪堺電車の状況を比較し、思いをはせることができた。
- キャプションが色分けされていて見やすかった。
- 電車の歴史かと思ったが、沿線の歴史をしていて驚いた。
- 発祥が馬車鉄道だったことに驚いた。
- 初代通天閣の広告が日立ではなく、ライオンであったこと。
- 写真がたくさんあって良かった。

- 解説が丁寧だった。
- 大浜公園の歴史が興味深かった。
- 阪堺電車に100年もの歴史があるとは知らなかった。
- スピード感のあるこの時代に、ゆっくりとした時を過ごす乗り物も必要である。
- 南海電鉄の子会社だったことに興味を持った。
- 阪堺線を利用して、廃線跡や大浜公園が今どうなっているのかを詳しく見てみたい。
- 今の阪堺電車がかっこよかった。
- 夏祭枕太鼓が良かった。
- 展示の流れと会場の流れが逆。
- 馬車鉄道の絵や写真があれば見たかった。
- 各時代の制服が見てみたかった。
- 全体的に文字が多く見づらい。
- キャプションの字の大きさが小さかった。

#### 4、考 察

共通質問での結果を見ると、どれも80.0%以上の方が「良い」「やや良い」と回答されていることから、満足して帰っていただけたのではないかと考えられる。ただ、「やや悪い」と回答されている方がいたのも事実であり、特に展示の見やすさについて、そのように思われた方が多かったので、キャプションの字を大きくしたり、字数を減らしたりすれば、なお良かったと思う。

阪堺電車を利用したことの有無についての結果を見ると、大阪府内で唯一の路面電車であり、100年を超える歴史を持つ阪堺電車は、地元の人の交通手段としてはもちろん、沿線の観光名所を周遊する手段として利用されており知名度はあるが、他の私鉄との競争が激しいことや、来て下さった方のお住まいの地域も影響するので、約半数にとどまったと考えられる。

阪堺電車沿線の歴史や文化について聞く質

問では、290人の内117の方が回答されており、そのほとんどの方が大阪に在住されていた。

結果を見ると、「新世界にルナパークがあった」ということを知っている方が多く、これは、新世界ルナパークが開園した際に通天閣が同時に建てられ、現在も残っていることや、ルナパーク内にあった劇場が、一部は映画館などに姿を変えているものの、複数残っているからではないかと考えられる。

また「菅榎彦が阪堺沿線に住んでいた」ということを知っている人は15.4%と少なく、これは菅榎彦が公募展などに作品を出品せずに距離を置き、人々からの求めに応え描くことを第一にしたため、昨今の日本の美術史には登場することは稀で、作品を目にする機会が少ないことが原因と考えられる。

感想を見ると、全体的にどの内容の展示にも興味を持っていただいたことから、展示の構成や内容が適切であったと考えられる。何より、自分たちの展示を見て、「阪堺電車に一度乗ってみたい」、「阪堺電車沿線を訪れてみたい」と思ってもらえたことが、一番大きな成果であると思った。

(化学生命工学部 3回生 岸本 紘幸)

## D班「一九六三あゝ映画」の展示について

### 1. はじめに

1963年、東京オリンピックを翌年に控え、まさに右肩上がりであった当時の日本。しかし、映画業界は斜陽化へと向かっていた。社会の動きやテレビの普及などにより、「娯楽の王様」だった映画の時代は過ぎ去ってしまう。そんな映画にとってターニングポイントといえる1963年を軸に、映画産業の姿と裏側でそれを支えた人々の熱い想いを展示した。

### 2. 問いについて

共通項目の説明：全班の共通項目として～の問題を設定し、5段階で評価してもらった。

各班の問いについて：映画館へ行く頻度、展示で印象に残ったものについて該当するものを選択してもらい、展示についての感想を自由記述してもらった。

### 3. 分析結果

#### (1) 共通質問の分析

##### • 展示内容について

「やや良い」「良い」が全体の8割を占める。映画という身近なテーマを取り上げたことで、来館者が展示を見ながら身近に感じられるものだったためこのような結果になったのだと考えられる。

##### • 見やすさについて

キャプションの文字が小さくて見えにくいという意見をもらった。幅広い世代の方が来られるのに、自分たちの基準で作成してしまったことが反省点だ。

##### • 解説について

作業の役割を分担したこともあって班員によって資料への知識量もちがいがでて、解説が十分にできないこともあったためと考えられる。

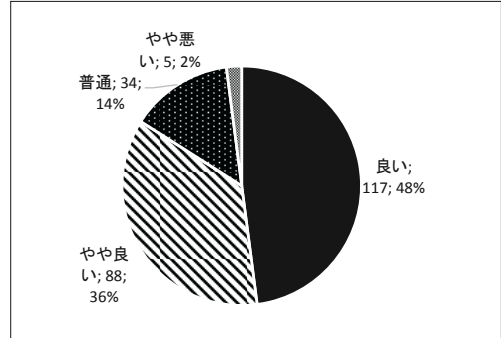


図1. 展示の内容について (人数；%)

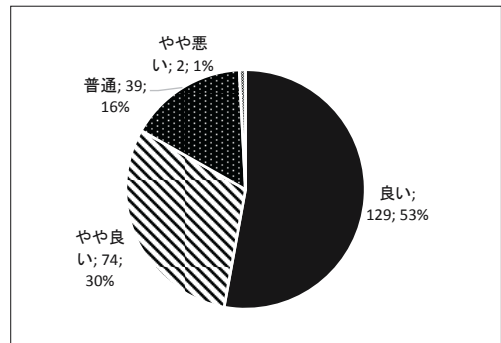


図2. 展示の見やすさについて

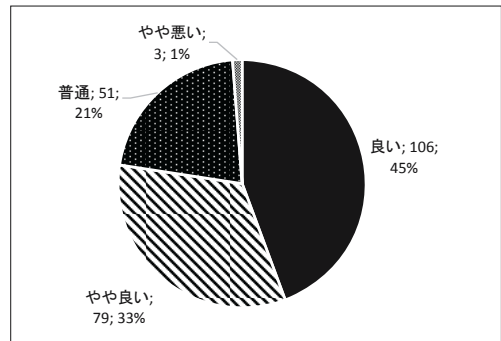


図3. 展示の解説について (人数；%)

##### • 雰囲気について

半数から「良い」の評価をもらった。音響プレートや絵看板、当時の活躍した俳優など1963年を生きた人々には懐かしさを感じてもらえたからだと思う。

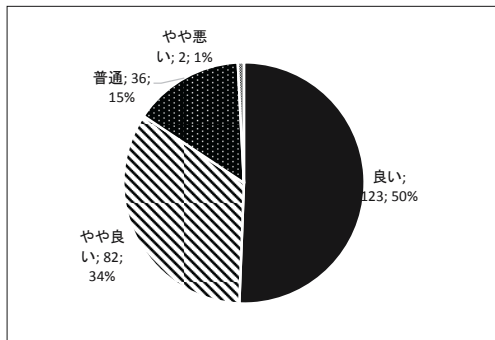


図4. 全体の雰囲気について (人数; %)

## (2) 班別の問の分析

「映画離れ」が叫ばれる昨今であるが、今回実施したアンケート結果からも「半年に1回」に票が多く集まった。「月に1回」、「半年に1回」、「年に1回」と選択肢に設定した間隔が広くて正確なデータではないかもしれないが、映画館へ行く機会は多くないようである。映画館に行かない理由として考えられるのは、①娯楽の多様化②テレビ・インターネットでの動画配信があげられる。①娯楽の多様化は、本展示でも取り上げたように映画館以外にも娯楽施設があり、そのなかでも観覧料が相対的に割高に感じてしまうのではないか。また、②テレビ・インターネットでの動画配信により、自宅などのプライベートな空間で映画鑑賞が可能になったことも大きな原因と考えられる。

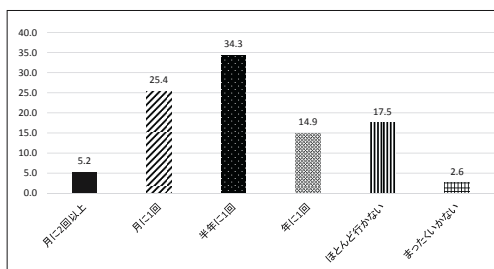


図5. 映画館へ行く頻度の分析

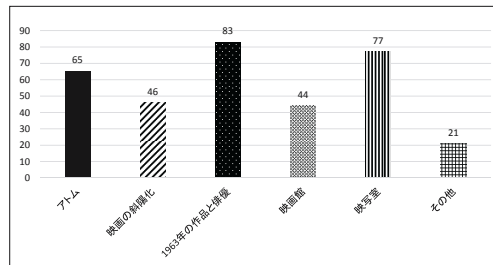


図6. 印象に残ったものの分析

こちらの問いは複数回答だったため割合ではなく回答数をグラフで表した。来館者にとって一番印象に残ったものは「1963年の作品と俳優」だった。1963年という時代を軸にした展示であるため当時を知っている人にとっては懐かしさを感じるものであり、作品と俳優は強くそう感じるため印象に残ったのだろう。また、高橋英樹など若い世代でも知っている俳優のプロマイドを展示したため興味を持ったと考えられる。同じように世代に関係なく認知される「アトム」も回答数が多い。今回の展示でわたしたちが伝えたかった秘密の場所「映写室」が印象に残ったと回答した人が多いことはうれしい。展示ケースを2つ使い、展示品も豊富につめこんだ結果と考えられる。また、解説にも各班員が力を入れたこともその理由のひとつだろう。逆に「映画の斜陽化」や「映画館」はパネル展示が多く流し見していく人もみられた。「その他」には、音響プレートや絵看板があがった。やはり絵看板のインパクトは強く、来館者からの質問も一番多く興味を持つ人は多かった。

## (3) 展示についての感想の分析

- 絵看板がとても印象的。
- 年表を見て時代の出来事が分かり、なぜ映画が衰退していったのかが分かった。
- 学生らしいフレンドリーな雰囲気だった。
- なぜ1963年にこだわったのかが分からな

- った。
- 絵看板の存在感でほかの展示品が埋もれているように感じた。
  - 1963年当時の「斜陽化」と現代の映画産業の「斜陽化」を比較してはどうか。
  - 新聞記事の字が小さくて読みにくい。
  - アトムと斜陽化とのつながりをもう少し説明してほしい。
  - 今後日本の映画産業はどうなるのか考察すれば面白いのではないか。
  - 1963年を映画産業衰退の象徴としてとらえる発想は面白い。
  - 「一九六三 あ、映画」というテーマにした意図の説明がもっとほしい。
  - 年代が同じなので懐かしかった。
  - 絵看板が手書きだということに驚いた。
  - 昔の雰囲気味わうことができた。
  - 娯楽の主流がテレビに映る時代に生きたものとしてこの展示は感慨深い。
  - キャプションや章パネルへのこだわりが感じられた。
  - おまけの映画館情報が面白かった。
  - ほかの班と関連付けてある資料があつて良かった。
  - 字だけでなく物に興味をひかれた。
  - 雰囲気が統一されていて展示に入り込みやすかった。
  - もっとほかの絵看板が見たくなった。
  - 解説と展示の方法に再考の余地がある。
  - 図録と合わせて展示をみると興味深い。
  - 最後に展示が完結していない。
  - 期待したが内容が薄かった、映画好きを唸らすには足りない。
  - 音響プレートというものを知らなかったの  
で興味深かった。
  - 説明が分かりやすかった。
  - 映画館に行こうという気持ちになった。
  - 看板が悪目立ちしている。

- 映写室からロマンが伝わってきた。
- 各展示品のインパクトがどれも大きいので視覚的に楽しめた。
- 看板の迫力はすごいが関連性が分からなかった。

絵看板に関する意見が多かった。インパクトがあつて良いという意見もあれば、インパクトが大きすぎてほかの展示品に印象が残らないという意見もあった。1963年という軸から年代は離れているが、技術は当時から変わらないということで展示したが、その意図があまり伝わっていなかった。ただ展示の目玉として置いているのではなく、なぜ絵看板を展示しているのかという意図を詳しくキャプションで解説ができればよかった。キャプションや章パネルなど展示の統一感は工夫してつくつたため、雰囲気は感じ取ってもらえたと思う。やはり1963年というタイトルと展示のずれが感じられ、映画好きには物足りないものとなってしまった。

#### 4. 考 察

1963年という時代にフォーカスしたことから、当時を知る人たちには懐かしさを感じてもらえて評判はよかった。しかし、懐かしさだけが印象に残ってしまい、わたしたちが伝えたかった映画産業の姿やそれを支えた人々については薄くなってしまったように思う。「現代の映画産業」と「これからの映画産業」へつなげていけば若い世代にもじっくりくる展示になるうえ、来館者が考えさせられるような展示になったかもしれない。

(文学部 3 回生 荒川真衣)



#### 第4章 感想

全体的に高評価だったので、嬉しく感じます。「学生さんが丁寧に解説してくれて良かった」や「もう少し展示期間をのばして欲しい」などの意見も多々あり、実習展を開催して、大変なこともありました。良かったと思います。ただ、展示パネルや説明に関して、「文字が小さい」などの意見もあり、もう少し工夫すればより良い展示になったのではないかと思います。また、実習展を通してアンケートの大変さを実感しましたが、様々な人の意見を間接的に知ることができ大変勉強になりました。

(社会安全学部 4回生 三谷 阿希歩)

自分たちでテーマを決めて、展示をすることはとても大変なことであつたし、多くの荒があつたことはアンケートを見ても、先生方の講評を見てもわかる。しかし、それは一部で、来館者に限れば高評価をもらえていたことは嬉しいことだ。

今回、アンケートの集計をさせていただいて、感じたことは連絡を取ることにむずかしさだ。アンケートをまとめる役割になると、横のつながりは大切になってくる。しかし、今回まとめ役をやらせていただいたことで、自分が取得しようとしている社会調査士の資格を生かすことができた上に、来年度にもつなげることができる分析結果を出すことができたのではないかと思います。

(社会学部 3回生 荒木 理穂)

今回の実習展には、学生からお年寄りまで幅広い年齢層の方が展示を見に来て下さっていました。年齢層に偏りがなく、誰もが気軽に訪れることができるというのは、大学の博物館実習展ならではのと思います。

来館者の方にいろいろと話を聞いている

と、年に1度の実習展が楽しみで何回も来られていると言う方も、初めて来られたと言う方も、「とても勉強になった」「楽しかった」との声が多く、やってきて良かったと心から思いました。またアンケートを実施する側としても、様々な意見をいただき、本当に勉強になりました。

私はアンケートの集計をしてみて、同じ資料でも、人によって捉え方が様々であることが分かりました。実習展を通じて感じたことを、今後に生かしていきたいと思います。

(化学生命工学部 3回生 岸本 紘幸)

展示をつくるにあたって企画から借用、展示まで約4ヵ月取り組んできたが、準備にのめり込めばのめり込むほど客観的にみることが難しくなっていく。展示が終わって先生方の講評やアンケートを見て自分たちの展示がどう見えたのかが分かった。展示を見て思い感じることはさまざまだが、博物館は来館者の声を聞いて活かすことでより良い展示をつくっていくのだと実感した。

(文学部 3回生 荒川真衣)